

しづかなる力満ちゆき

(平成28年度進路資料軌跡の巻頭言より)

人はなぜ勉強するのか。勉強に必要なものとは何か。勉強することの意義とは何か。幾多の人が考え、答えを出し、伝えてきた。皆さんはどのように考えているのだろう。

「それ学は立志より先なるはなし(王陽明 示弟立志説)」

(勉強の一番始めに必要なことは志を立てること以外にない) 勉強はしなさいと言われてするものではない。内なる命令があってするもの。それが無い限り、真の勉強にはならない。内なる命令とは、志のこと。吉田松陰も「志を立てて以て万事の源となす(松陰語録)」(志を立てることが全ての源となる)と言っている。でも、志は誰も与えてはくれない。君自身を見つけ、それを掲げるしかない。そうして、本当の勉強が始まるのです。

「有志竟成 志有る者は事竟に成る(後漢書 耿弇伝)」

(志を曲げることなく堅持していれば、必ず成し遂げられる)一見すると困難のようにみえても、固い信念をもって事に当れば遂には実現されるということです。でも、この堅持、すなわち、継続は決して易しいことではありません。

「学は以て已むべからず(荀子 勸学篇)」

(学問は途中でやめてはならない) 秋田の先覚、森川源三郎翁も三心「発心、決心、継続心」のうち、継続心が容易ならざるものであるが故に、その重要性を強調しています。結局、学びの継続、学び続ける力がものをいうのです。

以上、勉強には揺るぎない志が必要だということです。今一度、真摯に自分を振り返ってみてください。志について自問自答してみてください。

勉強して、自分の変化(成長)が実感できた瞬間が大好きだった。子どもの頃、自転車に乗れるようになるまで人よりしばらくかかった。傷だらけになりながらもようやくこつをつかみかけたかなと思った瞬間、突然に乗れている自分に気づき、うれしさが体中を駆けめぐった。あの喜びは何物にも代え難い。勉強もこれと全く同じだった。学ぶ楽しみ、分かったときの充実感に人に活力を与えてくれる。人生に生き甲斐を感じさせてくれる。これが、学ぶことの意義なのだと思う。

社会に出て困難に直面したとしても、過去に苦難を乗り越えた経験があれば、克服できる。勉強は苦しい。自分にとって難しいことを身に付けようとするものだから苦しいに決まっている。でもこうした苦しみに対峙し、自分を高めようとする力は、そのまま、苦勞に耐えて乗り越える力となる。定期考査に向けて一心に勉強する姿は、未来におけるそのための格好の訓練となる。学びとは、畢竟、人生を強く生き抜く力の養成に他ならない。「work」は「働く」の他に、「勉強する」という意味がある。生徒として work できなければ、職業人として work できるはずがない。学校で勉強するということは、将来を生き抜いていく術を身に付けることなのです。

また、人生は「選択」の連続である。その都度、どちらを取るべきかの決断を下さなければならぬ。そのときの的確な判断に必要なもの、思考力や判断力、視点の有り様、これらはすべて教科の学習によって培われる。勉強する意義はここにある。

もう一つ。勉強することは、日本の文化を高める。豊かな文化のもとでこそ、心穏やかに自分が思い描く人生を追求できるのだと思う。夕焼けの美しさに見とれていた子どもが、ふと、不思議に思い、そばの人に尋ねる。「おじちゃん、どうして夕焼けは赤いの。」「それはね、虹を見たことあるかな。光は虹の七色でできているんだよ。でね、夕方は赤だけ届くので赤く見えるんだよ。・・・」。学校の帰り、友達と歩きながら一つのことについてああでもないこうでもないと話していたら、向こうから、近所のおばちゃんがやってきた。

「あっ、おばちゃん、今ね、・・・」。こんなシーンがあったら私はうれしく思う。子どもたちは、こうして種を植ええられる。学ぶことの楽しさや大切さ、そして日本の文化の素晴らしさなど。大人になってきつと芽が出て、子どもたちに学ぶ意義を教えてくれる、その人の言葉で。そんな国になればいい。こんな学ぶ意義があってもよいと思う。

しづかなる力満ちゆき 蟋蟀とぶ (加藤楸邨)

静かに見えるのは次なる動への完全なる準備、力を極限にまで漲らせているのだ。この句は、読む度にいつも私を勇気づけ、応援してくれる。語りかけてくれる。「努力を重ねて行きなさい。苦勞があっても耐え、一人静かに力を溜めていけば必ずや飛翔の 때가やってくる。道は開けるのです。それまでがんばりなさい。」

皆さん、どうぞ自分の力を信じ、そのときのために力を溜め込んでください。機が熟し、突然と自分が信ずる未来へ飛び立っていくその日を期待しています。(完)